

秋田県内の中学生・高校生を対象とした性教育講座の実際

志賀くに子

Sex education lectures targeted at junior high school and high school students in Akita prefecture

Kuniko SHIGA

要旨：秋田県における「性教育講座」は、1990年代の秋田県における10代の人工妊娠中絶率（15-19歳の女性人口1,000対）が全国平均より高い数値であったことに端を発している。この状況から秋田県教育庁・秋田県教育委員会では、秋田県内の全高等学校へ、性教育講座講師派遣事業を開始した。また秋田県医師会でも、秋田県の若年出産・中絶数の多さや日本におけるHIV/AIDS増加の現状をふまえ、2003年、性教育プロジェクト委員会を立ち上げ性教育派遣講座への医師派遣の窓口になった。中学校・高校での「性教育講座」では、生命の大切さ、性感染症、男女交際、妊娠・出産・避妊、妊娠中絶などについて、学校ごとの実態に即した講演が行われている。

私は秋田県性教育研究会会員として2003年（平成15年）から県事業である「性教育講座」を担当している。この「性教育講座」の目的は、様々な性情報が氾濫するなかで性感染症や性に関する正しい知識を身に付け、社会的な風潮に流されることなく、正しい行動を選択できることである。講座では生命や生命を育む女性の心と身体について、そして自分を大切に、他人にも思いやりをもつことを学習する。本稿では秋田県内の中学生・高校生を対象とした性教育講座の実際の一部を紹介している。

キーワード：性教育、秋田県、中学生、高校生

Abstract： Sex education in Akita prefecture stems from the higher than national average in the 1990s of artificial abortion in Akita prefecture among girls in the 15-19 age group. This situation prompted a sex education lecturer to be dispatched to all high schools throughout the prefecture, by the Prefectural Office of Education within the Prefectural Board of education.

In conjunction, the Prefectural Medical Association found that in Akita prefecture, births to young mothers and abortion numbers were higher in relationship with the increase of HIV/AIDS cases throughout Japan. Based upon the Board of Education's 2003 projection, doctors were thus dispatched and sent to the Education Office to begin lectures to all schools. These lectures stressed the importance of one's life, sexually transmitted diseases, sexual relations, pregnancy, childbirth, contraception and abortion. These lectures have been conducted at the junior high school level as well as the high school level ever since.

From 2003, I have been in charge of Akita prefecture's sex education lectures as lectures and researcher helping to improve young peoples' knowledge of sex education. This includes correct knowledge of sexually transmitted infections which is influenced by the flood of correct and incorrect information from social media. From these lectures we have taught the importance of women's mental and physical health life with compassion to others.

Thus, this paper introduces sex education lectures targeted at junior high school and high school students.

Key words： sex education, Akita prefecture, junior high school and high school students

日本赤十字秋田看護大学

Japanese Red Cross Akita College of Nursing

I. 日本における青少年の性行動

日本の青少年の性行動や性意識の変化は、『青少年の性行動－我が国の中学生・高校生・大学生に関する第7回調査報告－』（財団法人日本児童教育振興財団内日本性教育協会，2012）で把握できる。この調査は1974年に開始され、ほぼ6年間隔で続けられてきたものである。報告によると、中学生のデート経験率は1987年当時は女子が男子を上回っていたが、1993年から1999年にかけて両者の差異は縮小した。しかし、1999年から2005年にかけては、再びデート経験をめぐる性差が拡大する兆しがみられた。他方、2011年の中学生のデート経験率は、2000年に比べると、男子ではほとんど変化はなかったが、女子では減少していた。次に、キス経験率では、1987年から1993年にかけての変化は男女とも少ないが、1993年から2005年にかけては、男女とも経験率の上昇がみられた。とくに女子中学生のキス経験率は、1999年から2005年にかけて12%から19%へと大幅な上昇をみせ、男子の経験率を上回るに至っている。しかし、2011年では男子ではほとんど変化はなかったが、女子では低下し、性行動の経験率の低下傾向がみられた。キス経験率において青少年の性行動の活発化がみられるのは1990年代から2000年代にかけてのことだったが、2010年代に入ると、男女とも性行動の経験率は逆に減少する傾向が現れはじめた。そして中学生の性交経験率では男女とも、どの年度でも2～4%程度である。

中学生や高校生に関しては、1990年代に入って、とくに高校生のデート・キス・性交経験、中学生のデート・キス経験を中心に経験率の上昇がみられた。ここから性行動の活発化・低年齢化が生じたのは1990年代以降のことであるといえる。しかし、2011年には、とくに高校生において性行動の経験率の低下傾向がみられ、中学生や高校

生の性行動における男女差に注目すると、1999年から2005年にかけて、高校生のキス経験率や性交経験率は、女子が男子を上回る兆しがみられている（図1）。

II. 秋田県における「性教育講座」

日本における青少年の性行動はI. で述べたとおりである。性行動の活発化が指摘され始めた頃、秋田県における10代の人工妊娠中絶率（15～19歳の女性人口1,000対）は、1996年全国7.0、秋田県9.9、1998年全国9.1、秋田県12.2、2000年全国12.1、秋田県19.3であり、秋田県では全国平均より高い数値であった。この状況から秋田県教育庁・秋田県教育委員会では、秋田県内の全高等学校へ、性教育講座講師派遣事業を開始した。また秋田県医師会でも、秋田県の若年出産・中絶数の多さや日本におけるHIV/AIDS増加の現状をふまえ、2003年、性教育プロジェクト委員会を立ち上げ性教育派遣講座への医師派遣の窓口になった。

そして同時期、日本産婦人科学会秋田地方会と日本産婦人科医会秋田支部による、性教育指導マニュアル「すこやかな心と体の性の成長をめざして」が発行された（田中，村田，2004）。このマニュアルは、「月経と第二性徴」、「妊娠と避妊」、「性感染症」、「セクシュアリティ」、「参考資料」の5章、いずれも基礎編、応用編と構成されていて、CD化したスライド集が付属されている。このマニュアル（CD版）は2014年に改訂され、「第二性徴と思春期のからだ」、「思春期の悩み」、「受精・着床・妊娠」等16項目から構成されている（秋田県医師会，2014）。

また2002年には、「あきた健やか親子21」として県内10中学校で、2003年には中学校5校と小学校4校で性教育派遣講座が試験的に行われ、2004年から原則中学3年生を対象とする、中学校性教育派遣講座が開始された。中学校・高校での性教育講座では、生命の大切さ、性感染症、男女交際、妊娠・出産・避妊、妊娠中絶などについて、学校ごとの実態に即した講演が行われている。

以上のような取り組みにより、秋田県における10代の人工妊娠中絶率は減少してきた（図2）。

III. 「性教育講座」の概要

秋田県では、II. で述べたように、県事業として性教育講座を開催している。私は秋田県性教育研究会会員として、そのような状況のなか、2003年（平成15年）から「性教育講座」を行っ

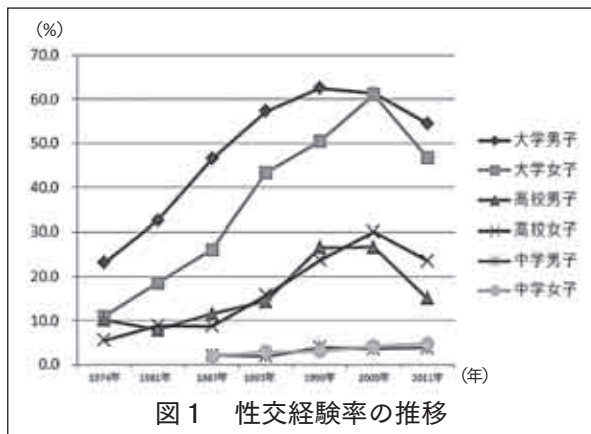


図1 性交経験率の推移

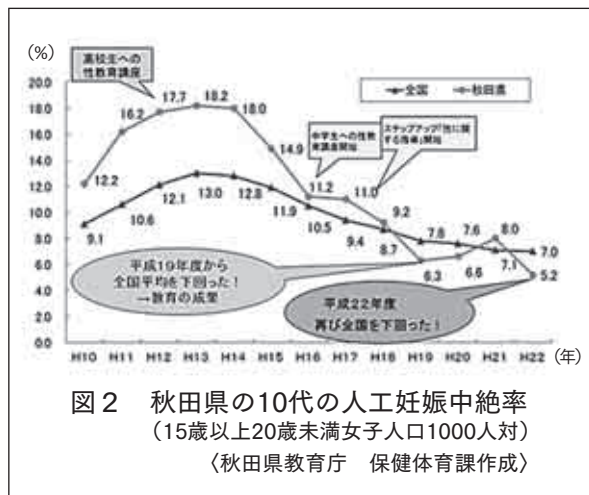


図2 秋田県の10代の人工妊娠中絶率
(15歳以上20歳未満女子人口1000人対)
(秋田県教育庁 保健体育課作成)

ている。秋田県性教育研究会は、1973年（昭和48年）に設立され、研究会活動の一つとして「性教育講座」を依頼され実施している。

この「性教育講座」の目的は、様々な性情報が氾濫するなかで性感染症や性に関する正しい知識を身に付け、社会的な風潮に流されることなく、正しい行動を選択できることとしている。生命の大切さ、生命を育む女性の心と身体の大切さ、自分を大切に、他人にも思いやりをもつことを学習する、性の健康教育はきわめて大切だと考えられる。なぜならば思春期の健康は、生涯の健康、次世代の健康につながるものだからである。

中学校を対象とする「性教育講座」は年間約40校、高校を対象とする「性教育講座」は約30校において開催されている。多くの中学校や高校は秋田県医師会が担当し、約1割を秋田県性教育研究会が担当している。私はそのうち3～4校の中学生・高校生を対象に講座を担当している。「思春期」「性」「性感染症」「男女交際」「妊娠」「人工妊娠中絶」「性被害」「生命」などをキーワードにして、おおよそ対象校の求める内容を準備している。

IV. 性教育講座の実際

「性教育講座」の目的は、様々な性情報が氾濫するなかで性感染症や性に関する正しい知識を身に付け、社会的な風潮に流されることなく、正しい行動を選択できることである。

1. 中学生を対象とした講座内容

事前に講座担当校養護教諭と打ち合わせをして、実施時期、時間枠の設定、内容等について電話やファックス、メール等を用いて検討していき、実際の講座では、パワーポイントを用い、スライドを50枚程度準備しておく。以下にスライド内

容の一部を紹介する。

- 1) 自己紹介の後、思春期について、二次性徴や不安や悩み、個人差－身長や体重、および性差－男女差について説明する。
- 2) 次に思春期の男子、女子それぞれの身体的な変化や特徴について説明する。男女の特徴を図示すると生徒達には、羞恥心が伴う様子が見受けられるため、生徒の整列を工夫している。
- 3) そして、身体的な特徴と併せて、男女の気持ちの違いについて説明する。性的な関心や行動の現れ方には、男女で大きな差があることや個人差があることを理解させたい。
- 4) 次は、人とのかかわり、友人関係、男女交際のルール、交際と責任などについて、特に異性とのかかわりの中で大事にして欲しいことを説明する。異性を好きになることは、思春期における変化として、誰もが経験することであり、人を好きになることは大人になりつつあることだと説明する。
- 5) 異性につきあうということは、自分と同じように相手を大切にできる心が必要だということ、男女交際におけるリスクについても説明する。
- 6) 健康問題として妊娠や性感染症、その予防、性的被害についても説明する。
- 7) 最終的には、中学生にとって望まない妊娠、予期せぬ妊娠を避ける最上の方法は、避妊ではなく、性行為をしないという結論に導いていくようにしている。
- 8) そして今、中学生一人ひとり、男子、女子それぞれにもって欲しい心、すなわち男子には相手を思いやる優しさと強い自制心、女子には嫌なことを明確に拒否する大きな勇気、について説明する。
- 9) 最後のまとめでは、性は特別なものでもなく、常に身近にあるものであると説明する。自分の心や身体を大切にすること、すなわち食事を摂る、質のよい睡眠をする、適度に運動をすることなどが「生きる」ということだと説明する。

2. 高校生を対象とした講座内容

高校生を対象とした性教育講座は、年に数校担当している。高校により求める内容には多少の違いがあるが、中学校と同様に事前に講座担当養護教諭と打ち合わせをし、実施時期、時間枠の設定、内容等について電話やファックス、メール等を用いて検討していき、そして実際の講座では、パワーポイントを用いている。高校によっては具体的に、リアルな映像を駆使しないこと、DV被害

者の家族もいることに配慮して欲しいという要望もある。

「青年期の課題」「性のトラブル」「男女交際」「妊娠」「人工妊娠中絶」「性被害」「生命」などをキーワードにして、おおよそ対象校の求める内容を準備している。以下にスライド内容の一部を紹介する。

- 1) あまり刺激的にならないようにといっても、寸劇も照れくささを感じる世代のため、具体的なストーリーとして展開する。これは現実的なことやアドバイスを語る方向が望ましいと考えたことによる。
- 2) 性のトラブルの一つ目に「望まない妊娠」がある。望まない妊娠をした場合の産まないという選択（人工妊娠中絶）と産むという選択（できちゃった結婚）があること示す。
- 3) 上記の問題について、胎児は育つのを待ってくれないということを伝えるために、16歳の女子高校生のストーリーを紹介する。
- 4) 中絶手術ができる妊娠週数、中絶手術費用、妊娠週数によっては、薬剤を用い陣痛を発生させ、分娩と同様の扱いになること、死産届けなどについても説明する。
- 5) あわせて早めの中絶の前に「望まない妊娠」をしないために何が大切か、対象者である高校生たちの妊娠の可能性について説明する。
- 6) 性のトラブルの二つ目に「性感染症」をあげる。性感染症は、人を愛し、愛されるすべての人の問題であること、性感染症でこわいのは、「知らない・調べない・防がない・治さない」ことであることを説明する。
- 7) 妊娠しない・性感染症に罹患しない、どちらも、決めるのは自分、頼れるのも自分であるとし、「No Sex」「Safer Sex」の考え方を説明する。
- 8) ここではある女性の手記を紹介しながら、愛なのかなんなのか、まだよくわからないなら、お互いを大切にしようと思うなら、Dual protection（二重の予防－性感染症にはコンドーム、避妊にはピルの服用）をすることだと説明する。
- 9) 最後のまとめでは、人は人ゆえに様々な問題に巻き込まれる。それを「自分のこと」として考えることができるようになって欲しいと説明する。

V. おわりに

性教育講座を終えると、担当校から生徒らの感

想等が郵送されてくる。そこには、「命の大切さを学ぶことができた（中学生）」、「今の私たちがからこそ大切なことや気をつけなければならないことを知ることができてよかった（中学生）」、「よく考えて行動しようと思った（高校生）」、「具体的な話を聞くことができてよかった（高校生）」等、記載されている。また高校（養護教諭）においては、保健室前に掲示している性感染症に関する資料の前で生徒同士が話をする姿も見られたり、性感染症への関心も以前より増したように思うという感想も寄せられたりしている。性教育講座を一度受講することで、生徒らが正しい知識を得たか否かの評価は困難だが、正しい知識を得る大切さに気づくことができた機会であったと捉えることができる。

秋田県のように専門家と学校が連携することで、性教育はより充実するものと思われる。また医学的な知識だけではなく、現場の教師らも自分や相手を尊重することや、自分の行動に責任をもつことなど、様々な学校生活や日常生活の場面で、活用できるように教えていくことが望まれる。

今後も現代の中学生や高校生の実態から、思春期の心とからだの発達を中心に説明しながら、自らの性に向きあう機会となるように心がけていきたいと考える。そして正しい知識のもとに自己の価値観や性をとらえさせ、相手を認め、思いやる心を大切にしながら、「責任ある行動とは何か」を考えさせていきたい。

利益相反

本稿において利益相反に該当する事項はない。

引用文献

- 秋田県医師会. (2014). すこやかな心と体の性の成長をめざして改訂版 (CD), 日本産婦人科学会秋田地方会・日本産婦人科医会秋田支部.
- 秋田県教育庁, 秋田県の10代の人工妊娠中絶率 (保健体育課作成), http://common.pref.akita.lg.jp/kosodate/nurturing/course23/detail.html?course23_id=92, 2014年10月20日.
- 田中俊誠, 村田純治. (2004). すこやかな心と体の性の成長をめざして, 日本産婦人科学会秋田地方会・日本産婦人科医会秋田支部.
- (財) 日本児童教育振興財団内日本性教育協会 (JASE)/「青少年の性行動全国調査委員会. (2012). 青少年の性行動－わが国の中学生・高校生・大学生に関する第7回調査報告, 4-11.